

ISO行動指針 “5SとABCの徹底”

オオケン便り

お知らせ

<PPP事業部>

<可部運動公園>

6月29日(土)、当公園の周辺自治会及び広島市(安佐北区役所)と合同により、第1回目となる“防災訓練”を地域住民約80名の参加で実施しました。

この日は、25年前の1999年(平成11年)に広島県で豪雨災害が発生した日で当公園周辺の安佐北区亀山地区においても甚大な被害が発生しました。

災害が発生した場合に行政(公助)の対応に頼るばかりではなく、この度の訓練等を通じて日頃より“自助”“共助”の結束力をより強力なものにする事が、地域住民の命を救う術になると考え、オオケン可部運動公園という公的施設の指定管理者として、地域住民の安全の一翼を担う会社になれるよう、あらゆる取組みを進めて参ります。



<広島市留学生会館> (国際交流・国際協力の拠点)

広島県の事業「ひろしまクールシェア(7月13日~9月16日)」に参加しています。これは暑い夏の期間、家から出て公共施設を利用してもらい、家庭での二酸化炭素排出量を低減し環境に貢献すると共に、公共施設を多くの方に利用して戴く狙いです。県のようなサイトで当館のPRをしていただき、より多くの方に留学生会館を知っていただく格好の機会になります。皆様からも、お取引様や知人の皆様にお声がけしていただき、涼しい館内で国際交流・国際協力をより身近に感じて頂ければ幸いです。

<広島市中小企業会館>

当館には、2,640㎡(660㎡×4)のイベント会場(展示館)があり、本館には研修室(定員102名、2分割可)と会議室(定員48名、2分割可)を兼ね備えています。そして顧客サービスの一環として展示館利用においては、施設内に会場設営に必要となるフォークリフトとオクタノルムパネルを兼ね備えており有料で貸出を行っています。また研修室と会議室はそれぞれ単独での利用も可。駐車場も完備。ご利用希望の方がおられましたら是非ご紹介ください。ご連絡お待ちしております。(TEL:082-277-4441)

<SP事業部>

8月の催事設営は、8/4(日)省エネ試験(広工大専門校)、中小企業診断士試験(産業会館東館、西館、本館)、8・6追悼式(護国神社)、8/25(日)広工大オープンキャンパス(広島工業大学)の4件を予定しております。暑い時期の会場設営の為、設営スタッフの体調管理を行い、熱中症を防ぐための対策を十分に行います。

<クレンリネス事業部>

草津病院の新棟稼働まで残すところわずかとなりました。合同面接会などを開催し順次新規採用をし、安全でお客様により環境をお届けするスタッフ育成に努めてまいります。

連日30℃を超える暑さが暫く続きます。最近はバッテリー式送風機付のジャケットなど暑さ対策になるものもあります。特に屋外で作業する方には有効なものですので、希望される方は一度本社担当者へご相談ください。屋内作業が多い方も水分補給、普段の食事、睡眠をしっかりとってください。

<FM事業部>

FM事業部では、6月23日~7月10日の短期間に、労災1件、物損事故が2件発生しています。各事業所においては、今一度5S・ABCの徹底を強く意識するとともに、日常業務の中で感じた「ヒヤリハット」を洗い出し、改善に取り組んでください。必要な資機材があればFM事業部に相談を。

<セキュリティ事業部>

オオケンだよりが皆さんの手元に届くころには梅雨は明けているものと思いますが、8月も夕立や

台風など豪雨の発生しやすい時期となります。

警備対象施設の外周にゴミや落ち葉などが落ちていたり、豪雨の際に側溝が詰まって雨水が溢れる恐れがあります。外周巡回の際には周辺の環境にも注意しゴミの拾い掃きなどして環境整備に努めてください。

<東京支店>

休日にボランティアで野外活動を行っていた際、数人が熱中症になってしまい、1名は救急搬送となりました。先日聞いた熱中症についての講義で、熱中症は炎天下だけではなく、室内でも十分発生すること。建物の共用部（廊下や設備機器エリアなど）は風通しが悪い上に空調が効いていないことも珍しくないため、室内での作業などは充分注意が必要と感じました。また、水分塩分の補給も必要ですが、高温多湿環境での体温調節機能低下が原因となることも多いとも聞きました。

顔のほてりや赤み、頭痛などのサインをご自身も周囲も見逃さないようにしてください。「もう少しでこの作業が終わる」などと無理をすることは大変危険です。職場の皆さんで互いに仲間の様子を見ながら注意しあって、これから続く酷暑を乗り切っていきましょう。ご安全に！



<安全衛生委員会>

6月に発生した労働災害は、雨が降っていたこともあり足元が滑りやすい状態で発生しました。

4月には壁に立てかけてあったモップに引っ掛かり転倒した際、股関節を骨折し約1か月間の休業を伴う事故が発生しました。ビルメンテナンス業界で発生頻度の高い転倒転落事故は骨折するなどして休業を伴う重大事故へと繋がる可能性があります。悪化し続ける労災保険料率を改善するには、休業を伴う労災事故をなくしていくしかありません。

段差や足元が滑りやすいなど、転倒する危険性のある場所は事業所内においても数多くあると思います。ヒヤリハットや危険個所の情報を事業所内で共有し、5S・ABCを徹底した上で転倒転落事故の撲滅を目指していきましょう。ご安全に！！

<磨種（とぎぐさ）>

例年6月末には筆者が関係する様々な組織の総会があります。その中で印象的だったのは、南法人会青年部会や県法人会連合会青年連絡協議会（略して青連協）総会後の懇親会で（県内に16単位会あり～県内には16の税務署があり、16の法人会には青年部会あり）50代経営者の方々と話し込んでいるうちに、『忖度』という言葉は知っていても、『惻隱の情』という言葉は初めて聞いたという方が多くいて驚きました。

「忖度」は日本だけではなく、様々な国社会の組織の中にみられますが、「惻隱の情」に関しては実際に触れることは平生余りありません。

筆者の子供時代、学校給食が未だ普及してない昭和35年頃の昼食は弁当で、その弁当すら持って来れない家庭の子は空腹を我慢して昼休みは校庭にいました。弁当を持って来た比較的恵まれた家庭の子も弁当を広げて見せるような子は余りいません。修学旅行の積立金を担任の先生が集める時は、家庭の事情で持って来れない子もいましたから、担任の先生はその子に恥をかかせないようにして集めてましたし、修学旅行出発日に行けない子は学校を休んでいましたが誰も咎めませんでした。塾がない頃ですから担任の先生が放課後近所のお寺で気に入った子だけ集めて補習する人がいましたが、呼んでもらえない子同士で示し合わせ、自転車に乗って小石を投げに行くのが、呼んで貰えない差別に対する精一杯の抵抗でした。そういう経験をした子は大人になるにつれ「惻隱の情」が自然と身に付きます。

150年前イタリアが連合独立国家を形成した頃の児童小説クオレは、今でも愛読書ですが、ある冬の雪の日の朝、子供たちが小学校校庭で雪合戦して、ちょうど校長先生が正門から入ったところへ雪玉が飛んできて、メガネをかけた校長の顔に当たりメガネは壊れて顔から血を出して叫びます『誰だ！石を詰めた雪玉を投げたのは・・・』誰も知らぬふりの中、ガツローネという子牛のような体格の男の子が『僕です。僕がやりました、許してください、校長先生！』と言って名乗り出ます。校長は『ガツローネ！お前は勇気のある優しい子だ、お前が投げたのではないが、その勇気に免じて犯人捜しはしないよ』と言って、割れたメガネを持ってその場を立ち去ります。卑怯なことを許さない勇気のあるガツローネはその後も弱い子達の用心棒となって意地悪な悪童から守る話に、数学者の藤原正彦さんも満州に居た頃何故かクオレの愛読者になりガツローネを真似て実行したそうです。

利を以て利となさず、義を以て利となす・・・義とは道理にかなった人間の道であることを、クオレを読んで知り後にオオケンの経営理念の礎となります。